「全体講演会」を開催しました。

取手松陽高校では、12 月 13 日（月）に本校体育館で、１年生を対象に「全体講演会」を実施しました。JICA 国際緊急援助隊事務局より幅野由樹子先生をお招きして、「今、10 年後、20 年後の自分にできること」をテーマに、JICA 海外協力隊の保健師として活動されたジブチ共和国ディキル保健センターでのご経験を中心に、ご講演頂きました。生徒達は、ジブチ共和国の厳しい生活環境を知り､その状況を改善すべく活動を行う幅野先生の姿に大いに刺激を受けた様子でした。

生徒の感想

自分が知らないことがたくさんあるなと感じました。飢餓や紛争が起きていることなどは少し知っていたけれど、貧しい中でも他人に対しての優しさがあんなにあるとは全く知りませんでした。自分も、周りの人に常に優しく接することができる人になりたいと思いました。

ジブチでは日本と違い厳しい環境であるにも関わらず、とても優しく思いやりがある国だと知り、そのような国の方が栄養失調や感染症などで亡くなってしまう現状が非常に悲しく思いました。将来、ボランティアなどで誰かの役に立てるようになりたいです。

世界の現実を目の当たりにした時に、私がどう対応できるか分かりません。私も貧困地域へのボランティアに興味があり、将来に挑戦してみたいと思っています。自分にしか経験できないこと、体験できないことを大切にしていきたいと思います。貴重な時間を共に共有して頂きありがとうございました。

世界には、日本とは全く違う、貧しくて低栄養となっているような厳しい現実と向き合っている国があることを実感しました。頭では何となく知っていてもなかなか身近に感じ学ぶ機会が無かったので、今回とても貴重なお話を聞くことができて良かったです。今回のお話を通じて、もっと世界の国々の問題を知り、少しでも良い方向に変えることができるように、自分のできることを積極的にやっていきたいと思いました。そして、厳しい中でも周りを思いやることのできる皆さんの姿勢を見習い行動していきたいと思いました。

（写真１）講演会の様子（写真２）質問に答える生徒（写真３）講演会の様子